

こぶし だより

働こう障がい者も

SSKW

働けるんだオレたちも



つばさの会交流会の様子

CONTENTS

- ① トピックス2P~3P
- ② 特集「きょうされん全国大会 in ふくおか」4P~7P
「10.29全国大フォーラム in 日比谷野外音楽堂」
- ③ アドレス・編集後記8P

No. 344

2010
10・11・12
合併号

トピックス

トピックスの会 それぞれの現場から

Topics

チャレンジセンター

障がい者雇用の最前線とは

in 幕張研修

平成二二年一月二十九日・三〇日に千葉県(幕張)で「第一八回職業リハビリテーション研究発表会」が開催されました。

今年度のテーマは「障害者雇用拡大のためにいま、企業、就労支援機関に求められるもの」です。二日間にわたり、障がい者雇用に力を入れている企業の取り組みや障がい者を雇用する上で課題となっていることなどの研究発表が、それぞれのテーマごと(一六分科会)に分かれて行われました。その中で私が受講したのは、「職域拡大：農業分野における障害者雇用の取り組み」と「企業が望む就労支援」です。農業分野における障がい者雇用では、農作業の多様性が注目されています。農業と一口に言っても土作り、苗の植付け、水やり、収穫な

ど作業内容はさまざまで、必要とされる体力、作業人数も違ってきます。この特徴を活かすことで、障がいの重い人や集団での作業が苦手な人でも工夫次第で作業に参加できるようにになります。農作業はマイペースに作業ができ、失敗してもやり直しができることから、成功体験を積みやすいそうです。体力づくりや集中力の向上なども期待できるということでした。

企業が望む就労支援では、実際に企業の方のお話を聞くことができました。企業目線から障がい者雇用について話していただく中で、興味深いものがありました。それは、暗黙の了解とされている福祉側と企業側のルール・マナーが異なるということです。普段の生活では、企業のルールに合わせるということとはなかなかないことかもしれません。しかし、就職をしようと考えたときに面接という形で企業との接点は必ず出てきます。面接を受ける本人はもちろんですが、そこに付き添う支援者が企業では当たり前とされているルール・マナーを忘れてしまうと、この人を採用して大丈夫だろうか?と思われるてしまうそうです。支援者として企業との関

わりをもつ以上、福祉の視点だけではなく、企業の視点にも敏感になることが必要であるという内容の講義でした。

初日に行われた特別講演では、株式会社アルペンの人事部長より障がい者雇用実績についてのお話がありました。アルペンでは、平成一六年より知的障がい者の雇用を、平成一九年より精神障がい者の雇用を始め、今では知的障がい者の受け入れ数が大幅に伸びており、平成二二年六月一日の障がい者雇用状況は、一・八一%です。障がい者の雇用以降、特別支援学校からの実習生も昨年四八件受け入れているそうです。たくさん障がい者を受け入れる中で見えてきた今後の課題は、障がい者雇用で学んだことを高齢者対応、難病対応、育児対応、メンタル対応へ工夫することで、従業員への安心を提供していくことだそうです。

研究発表会は、福祉関係者だけでなく、企業の方も受講していました。これから障がい者雇用を理解のある企業がもっと増えていくことを期待しています。

(渡邊)



SSTにて面接練習

チャレンジセンター

秋の就活〜合同面接会〜

去る九月三〇日、法人本部にて障害者合同就職面接会に向けた練習会が開催されました。障がい者合同就職面接会は、ハローワークの主催で例年二回、一〇月と二月に行われており、毎回、多くの障がい者が参加されています。しかし、障がい者、特に知的障がいや精神障がい、

発達障がいをお持ちの方々には、「面接」という形で自己アピールをすることが困難な方が多いと言えます。そのような現状から、より良い準備をして面接会に臨んでいただくため、面接会の予行練習として面接練習会を企画しました。

面接練習会には、法人内外の就労移行支援事業所等より二〇名が参加され、室内に用意された五つの長机に分かれて、順番に面接を受ける形で行われました。

これは、実際の合同就職面接会では、参加企業が同じフロアで一斉に面接を行うことを受けるための設定です。周囲から聞こえる声や音などの環境に囚われずに、自分の面接に集中して臨むための本番を想定した練習でしたが、やはり自分の順番を待つ時間は本番さながらの緊張感があり、参加者は皆緊張した面持ちで自分の番を待っていました。

練習会后、面接練習の評価（面接の受け答え、態度、履歴書、身だしなみ等）を参加者や各事業所の支援員に伝えると、自己評価と比べて、喜んだり、落胆したりさまざまな反応がありました。しかし、「練習を通して、本番に生かす」

ことが目的であることを説明し、改善できることは改善して本番に臨むことを確認しました。

また、この面接練習会の対象は当事者だけではなく、本番で同席する支援員の練習でもあります。面接を受けるのはあくまで本人ですが、同席する支援員から本人の強みをアピールしたり、配慮が必要なことを伝えたり、本人が上手く伝えられない部分を補うこともできます。ただ、それも同席者の力量次第です。チャレンジセンターも含めて今回は初めて同席する人が多かつたため、支援員も練習会でイメージをつけて本番に臨みました。

そうして迎えた合同就職面接会では、多くの参加者が複数の企業に応募し、面接に臨みましたが、残念ながら今回は思うような成果は得られませんでした。また、全体的に場慣れしていない点、職務・職場の選定等、今後もう少し練習や検討が必要な課題があることも改めて感じました。

次回以降は、今回初めて取り組んだ面接練習会を行うだけでなく、その他の課題や、当事者や各事業所の支援員の疑問を踏まえた対策を継続して行っていききたいと思います。（古谷）

特集1

第33回 きょうされん全国大会

～ in ぶくおか ～

10月23日(土)・24日(日)の2日間にわたり、福岡市博多区の福岡国際会議場において、「第33回きょうされん全国大会inぶくおか」が開催され、2日間をとおし約2,400人が参加されました。

オープニングセレモニー

福岡と九州のなかま約200人がステージに立ち、大会テーマソングを歌い、よさこいを踊りました。なかまたちのパワーあふれるパフォーマンスに元気をいただきました。また、あわせて仲間準備会準備委員長の山下裕幸さんから挨拶がありました。

全体会

■ 挨拶

西村直きょうされん理事長より開催の挨拶、山口美智子実行委員長より歓迎の挨拶、多くの来賓の方々より祝辞をいただきました。

また、障害者自立支援法違憲訴訟原告及び補佐人28名がステージに上がり、代表として広島県の秋保夫妻が、「基本合意文書を国(厚生労働省)と取り交わしましたが、これがゴールではなく、本当の戦いはこれからです」との決意が述べられ、私たちも気を引き締めてこの戦いに取り組まなければならないと決意を新たにしました。

■ 基調報告

藤井克徳きょうされん常務理事より「障害者制度改革の推進のための基本的な方向(第一次意見)」、「人権といのち・尊厳の重さを深めあう」、「障害者権利条約と基本合意をベースとした制度改革の確かな流れをつくりだす」、「歴史の局面を切り開く実践・経営・運動の力ときょうされんの発展をつくりだす」等の報告がありました。

■ 記念講演

村崎太郎さんによる「差別のない世の中は～17歳からの猿まわし芸人人生～」と題して記念講演が行われました。村崎さんは17歳で初代次郎とコンビを組み、次郎の“反省”のポーズで全国的な人気者になりました。また、日本のみならずアメリカでの講演も成功をおさめた方です。

2008年に被差別部落出身であることを公表し、いまだ深く残る差別に立ち向かうことを決意したそうです。講演では自分の体験をユーモア交えて話されて会場からは笑いがわきおこり、あっという間に1時間が過ぎてしまいました。

利用者交流分科会

■ 第1分科会

私たちこんな活動しています

～利用者活動にとって必要なもの～

けやき作業所の直井信也さんは第1分科会において、コーディネーター（司会）とレポーターの二役を担い、第1分科会で大忙しとなりました。

ここでは直井さんのレポート内容をお知らせします。

全員参加型けやき作業所自治会の取り組み

けやき作業所は自治会ができて18年になります。今年に入ってから自治会活動をもう一度見直すことになりました。どうして見直すことになったかという、今までは役員会を中心にアンケートをとり、なかまの意見を聞き全体会で発表していました。でも、全体会では『賛成』に手を挙げる人ばかりで、本当にみんなが参加して意見を出し合って物事が決まっているのか分からない感じがしました。また、職員さんが自治会活動に消極的で、けやき作業所は特に若い職員さんが多いので、利用者と職員さんが一緒になって運営する自治会活動にしたいと思い再編を行いました。

私と自治会担当の職員さんが話し合い、3つの部会を作ることになりました。1つ目は喫茶部会、2つ目はレク（レクリエーション）部会、3つ目は工賃アップ部会です。

どうしてこの3つの部会になったのかという、今までのなかまの意見を集めると、この3つが多く、全員が参加しやすいようにしました。

それぞれ月に1回部会を開き、各部会の要望を役員会にあげてもらい、役員会で話し合い決まったことを全体会に伝えます。また、役員会と職員会との話し合いもしています。

喫茶部会は初めからあり18年間やっていますが、40万円位の売り上げがあり、何に使うかは検討中です。

「前回までの分科会は自治会でどこに旅行に行ったとか、誕生日会をやったなどの、レクリエーションの報告が多かったが、今回は、更に深く自治会活動の報告が聞けたことが良かった。記念講演の村崎さんの話が差別に対する取り組み方を聞くことができ良かったが、利用者部会の打ち合わせがあり最後まで聞くことができなくて残念だった。」

けやき作業所 直井 信也

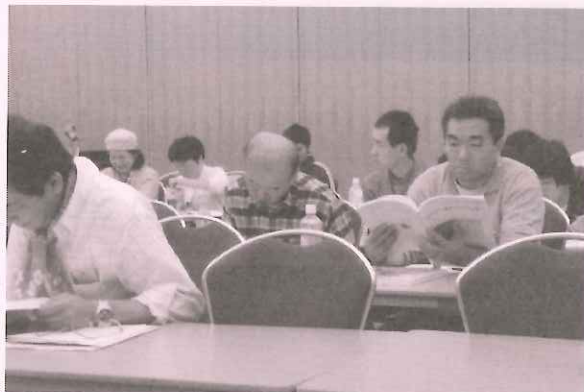
とちの実作業所では行事の前に目標や約束をみんなで決めて、それを守れたかどうかを話し合って、それができなかった時は、なぜできなかったかを反省して、次の行事の時には守れるようにしているところをみらいでも生かせたらいいと思う。

きょうされん全国大会での感想……いろいろ学ぶことの多かった3日間でした。

セルブ・みらい 竹村 達夫



第1分科会で発言中の直井さん



今年は、2人とも「私たちこんな活動しています」の分科会に参加しました。今年の分科会は、自治会の交流が中心でした。レポート発表は、けやき作業所の直井さんのレポートをはじめ、当日持込レポートも含め8本になりました。自治会活動をみんなのものにすることはこの作業所でも課題になっているようですが、直井さんのレポートに述べられていた「全員参加型」の自治会運営は、障がいの重い方も自治会活動に参加するヒントになりました。また、私が今まで見てきた自治会活動は、利用者に発言してもらうことに力点が置かれ、利用者も職員も知恵を合わせて問題解決にあたるという視点に欠けていたと感じ、自治会活動においても職員の役割が表でも裏でも重要であると感じました。最後に発言したコメンテーターの「一人の悩みをみんな

で考える話し合いをしている作業所が良い作業所であることが多いです」という発言を聞いて、果たして我がみらいはどうか、戻ってから持ち帰ってみんなで考えてみたいと思い、会場を後にしました。

セルフ・みらい 東岡 歩



私たちは『我が作業所自慢』という分科会に参加しました。印象に残ったのは代表者のレポート発表の中で、ボーナスのとりくみと要求書をみたらすごいなー。と感じたので参考にしたいと思った。

こぶし作業所 星 春佳

2日目の後半にはグループワークとして他の作業所の方々と作業所での自慢、現況を話し合いました。そこでは地域や作業所といった壁はなく‘なかま’というものを実感しながらなかまも職員も一緒になって楽しく話し合いができ印象深い時間になりました。

こぶし作業所 大島 志帆

分科会「就職したい人集まれ」に参加し、全国から集まったなかまの率直な意見を聞く良い機会に恵まれた。就職したい思いを強く持ち、その準備が整っているレベルにある方々のなんと多いことか。一方で、どこに相談したらいいかわからないという多くの意見。たとえ就職できてもちゃんとやっていけるかどうか不安という意見。ジョブコーチという立場での参加だったこともあり、これらの意見を真摯に受け止め、すべてを吸収したいと思う。

第2けやき作業所利用者代表として参加したAさんも「いろいろな人の意見を聞けるためになりました」と話す。また、Aさんは福岡の往復の際、「自分で切符を買いたい」、「自分で改札を通りたい」としっかり主張し、まごつきながらも最後まで自分できちんとやり通した。彼もまた着実に自立に向かう階段をのぼっているひとりであると実感している。

第2けやき作業所 高橋 克行

特集2

10.29 全国大フォーラム

～ in 日比谷野外音楽堂 ～

10月29日(金)に、きょうされん栃木支部の63名(10事業所)のメンバーが日比谷に集い、全国大フォーラムに参加しました。(全体での参加者は一万を超える)

今回のテーマは、「今こそ進めよう!障害者制度改革 自立支援法廃止と新法作りを確かなものに」ということで、参加者全員で声を高らかに上げながら東京駅までデモ行進を行いました。参加された利用者の方々からは

①デモ行進でみんなと一緒に大きな声でシュプレヒコールができて良かった②応益負担を早く廃止してほしい③私たちの生活を苦しめないでほしい④みんなの思いが政府に届けばいいなと思った、等々の感想が出されました。

声を出すことにより、私たち自らの力で世の中を良い方向に導いていくのだ、という確固たる信念を持ちながら、今後とも発信していこうと心あらたに思った一日でした。

(青木)

参加者の声

○10月29日、僕は「10.29全国大フォーラム」というイベントに参加しました。そこでは健常者と障がい者の差別について学びました。それは、健常者と障がい者の関係をなくすことなど、福島さんは僕らのためにそれをなくすことを約束してくれました。僕も障がい者自立制度を自分たちで作らなければいけないと思いました。

そして障がい者がいつか自由になって、自分たちが戦える時代がくればいいと思いました。そして、自分たちが同じであってほしいと思いました。また、自分たちが健常者に管理されてはいけないと自覚しました。たとえ障がい者だとしても人は人なのだから生きているものを差別しないでほしいと思いました。10.29全国大フォーラムを振り返って人の自由と信頼を勝ち取りたいと思いました。(日下田)

○東京の中心・銀座から発信した私たちの思いが、どんな経路を辿ってもよいので日本の隅々にまで届き、障がい者の方を知っていただくきっかけとなることを心から願います。

風邪をひいていたKさんに寒空の中ダウンを貸してあげたSさん、ちょっと体調を崩して帰りのバスの中で横になったMさんにそっと上着をかけてくれたHさん、Tさん、貴方たちの優しさが世の中を変える原動力となってくれますように。そしていつか何倍にもなってあなたたちのもとへ返ってきますように。(新井)

○大変いい勉強になりました。法律がよくなってほしいです。(早瀬)

○みんなの気持ちをのどがかれるまで訴えてきました。みんなと一緒に頑張ってきました。(大賀)

社会福祉法人
こぶしの会

- **こぶし作業所** ☎321-0126 栃木県宇都宮市茂原町837-1
 ・就労移行支援事業 TEL 028 (653) 1020 FAX 028 (688) 1121
 ・就労継続支援B型事業 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
 ・生活介護事業
 - **障がい者生活支援センター こぶし** ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (666) 6128
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
 - **こぶしのときわ荘** ☎321-0139 栃木県宇都宮市若松原2-6-8
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (653) 1581
 - **く る み** ☎321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (664) 0435
 - **けやき作業所** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244
 ・就労継続支援B型事業 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
 ・生活介護事業 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
 ・日中一時支援事業
 - **第2けやき作業所** ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
 ・就労移行支援事業 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
 ・就労継続支援B型事業 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
 - **県東ライフサポートセンター** ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
 「ほっとCHA」 TEL 090 (7820) 9165
 ・地域活動支援センター
 - **県東ライフサポートセンター「真岡」** ☎321-4305 栃木県真岡市荒町3-9-5
 ・就労移行支援事業 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (85) 8055
 ・就労継続支援B型事業
 - **ホームひまわり** ☎321-3321 栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字下原3932-79
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (678) 3592
 - **けやきハイツ** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (677) 2879
 - **ホーム秋桜** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井184-1
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (653) 1020
 - **コ ー ポ 峰** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井775-2
 ・知的障害者ケアホーム
 - **セルプ・みらい** ☎321-4363 栃木県真岡市亀山1043-23
 ・就労移行支援事業 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
 ・就労継続支援B型事業 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
 ・生活介護事業
 - **ぼ て っ と** ☎321-4364 栃木県真岡市長田1-12-5
 ・知的障害者グループホーム TEL 0285 (80) 1227
 - **芳賀地区障害児者相談支援センター** ☎321-4305 栃木県真岡市荒町110-1 市総合福祉保健センター内
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
 - **県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」** ☎321-4305 栃木県真岡市荒町111-1
 ・障害者の就業相談・支援 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
 E-mail p-cc-star@ec3.technowave.ne.jp
-
- **法人本部** ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
 ・総務・企画部 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128 E-mail soumukikaku@kobusi.or.jp
 ・就労・生活支援部 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128 E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp
 ・生産活動部 TEL 028 (666) 0439 FAX 028 (666) 6128 E-mail skb@kobusi.or.jp
 ・居住生活支援部 TEL 028 (666) 0418 FAX 028 (666) 6128 E-mail kyozeu@kobusi.or.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください (閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

毎日カラカラの寒い日が続いています。みなさま、お元気でしょうか。インフルエンザも流行の兆しが出てきました。充分お気をつけ下さい。今回合併号となってしまったことをお詫びいたします。残った月分をタイムリーに発行することや新年度に向け改善の努力をしてみたいのでこれからもよろしく願いいたします。 m()m

(星野)

編集委員

大塚 秋穂 小林 勇次 菊地 豊 星野 早苗 廣本 佳奈子 森島 知代

発行所 郵便番号 一五〇〇七三

東京都世田谷区砧六―二六―二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円